

ダブルハビテーション

~~~~~

マルチハビテーションという言葉をご存じだろうか？ マルチ（「多様な」を意味する複合辞）とハビテーション（「住居」を意味する名詞）を組み合わせた造語で、“複数の居住空間を行き来しながら生活するライフスタイル”のことを意味する。

habitation（住居）

~~~~~

特養と一般の高齢者ホームの違いは、特養の場合は入居金が要らないということです。もちろん一般の高齢者ホームでも、入居金を取らないところもありますが、大都市立地のホームを中心に入居金を数百万から数千万円に設定している施設がたくさんあります。

・・・

私の父が施設のお世話になるときも、特養は考えたのですが、「2年半待ち」と言われて、早々にあきらめました。ただ、介護を待つわけにはいかなかったので、月額 30 万円の老人保健施設を選んだのです。

老後は自分の集めてきたコレクションを展示する博物館を作りたいという夢を語る人がたくさんいます。

私もそのひとりでした。ただ、私は実際にやってしまいました。2014 年 10 月に埼玉県所沢市に B 宝館という私設博物館をオープンさせたのです。

床面積 200 坪の中古のビルを買い取り、内装の手直しと棚の設置で、**総額 1 億 80 00 万円かかりました**。10 年間 1 日も休まずに 24 時間働いてきた資金をすべて注ぎこんだのです。そこに私が 50 年間にわたって集めてきたミニカーやグリコのおマケなど 60 種類、12 万点のコレクションを並べたのです。

この博物館で儲けようとは思っていませんでしたが、小さな赤字で済むだろうと踏んでいました。世界でもここにしかない貴重なコレクションがたくさんあるからです。ところが、それが**大誤算**だったのです。スタッフの人件費、固定資産税、電気代、その他もろもろのコストは、**年間 1000 万円**にも及びました。一方、**売り上げは年間 100 万円程度**でした。

確かに、全国からお客さんは来ました。それどころか、メキシコやシンガポールからも来てくれたのですが、それはマニアばかりで、近隣の一般市民は、まったく相手にしてくれなかったのです。900 万円の赤字は、私が出稼ぎをして穴埋めすることになりました。

ただ、石の上にも三年とは良く言ったもので、**4 年目にして、赤字は急速に小さくなりました**。スタッフが辞めて、人件費がかからなくなった影響が大きいのですが、もうひとつ、私のコレクションが、百貨店の展覧会で展示されることになって、比較的大きな貸出料が入ってきたからです。

私が教えている獨協大学で、ゼミの追い出しコンパがありました。その席で、3年生が、卒業していく4年生に、**ゼミだけのオリジナル卒業アルバム**を手渡したのです。文庫本サイズでしたが、64ページもあるフルカラーの立派なものです。

私は驚いて、製作費をどこから捻出したのかと尋ねました。すると、3年生の学生は、**1冊 500円**で作れたと言うのです。

学生が利用したのは、**TOLOT** というサイトで、パソコンやスマホから無料でダウンロードできる専用アプリを使い、フォトブックを作ることのできるサービスでした。1冊から注文が可能で、送料無料・消費税込みの1冊わずか**500円**なのです。

基本的に1ページに1枚の写真を配置するのですが、本の形になっているのにもかかわらず、写真店で1枚ずつプリントするより、ずっとトータルコストが安いのです。

私は、これで、格安の写真集が作れるぞと、即座に思いました。

調べてみると、フォトブックを作ってくれるサイトはたくさんあり、「しまうまプリント」というサイトでは、36ページのものが、税抜・送料別で**198円**、税と送料を加えても、**311円**で作れます。